

主 題：イエスの教え ～従順と謙遜～

聖書箇所：マタイの福音書23章1－12節

きょうは皆さんとマタイ23:1－12からともに学びをしたいと思います。

- 1 そのとき、イエスは群衆と弟子たちに話をして、
- 2 こう言われた。「律法学者、パリサイ人たちは、モーセの座を占めています。
- 3 ですから、彼らがあなたがたに言うことはみな、行ない、守りなさい。けれども、彼らの行ないをまねてはいけません。彼らは言うことは言うが、実行しないからです。
- 4 また、彼らは重い荷をくくって、人の肩に載せ、自分はそれに指一本さわろうとはしません。
- 5 彼らのしていることはみな、人に見せるためです。経札の幅を広くしたり、衣のふさを長くしたりするのもそうです。
- 6 また、宴会の上座や会堂の上席が大好きで、
- 7 広場であいさつされたり、人から先生と呼ばれたりすることが好きです。
- 8 しかし、あなたがたは先生と呼ばれてはいけません。あなたがたの教師はただひとりしかなく、あなたがたはみな兄弟だからです。
- 9 あなたがたは地上のだれかを、われらの父と呼んではいけません。あなたがたの父はただひとり、すなわち天にいます父だけだからです。
- 10 また、師と呼ばれてはいけません。あなたがたの師はただひとり、キリストだからです。
- 11 あなたがたのうちの一番偉大な者は、あなたがたに仕える人でなければなりません。
- 12 だれでも、自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされます。

1. プロローグ マタイ22:15－46

23章の冒頭、我々の日本語の聖書では、「そのとき」ということばが出てきます。「そのとき」に何らかの状況があったわけです。まず、「そのとき」という状況を22章から学んで行きたいと思います。22:15－46で、ある人々の質問がイエス様に浴びせられました。イエス様はその質問に一つ一つ答えられています。

① パリサイ人たちの悪意に満ちた質問 22:15－22

まず、22:15－22では、パリサイ人たちがイエス様に質問しました。彼らは、「カイザルに税金を納めるべきでしょうか」と、イエス様に質問しました。イエス様はこの質問に対して、18節で「イエスは彼らの悪意を知って言われた。『偽善者たち。なぜ、わたしをためすのか。』」、そして21節「彼らは、『カイザルのです。』と言った。そこで、イエスは言われた。『それなら、カイザルのものはカイザルに返しなさい。そして神のものは神に返しなさい。』」と答えています。パリサイ人たちの悪意に満ちた質問であるとイエス様は言われています。

② サドカイ人たちの質問 22:23－33

この後23－33節では、また違う者たちがイエス様に質問をしています。これはサドカイ人たちです。彼らは復活についてイエス様に質問をしました。その質問に答えてイエス様は29－30節で、「:29 しかし、イエスは彼らに答えて言われた。『そんな思い違いをしているのは、聖書も神の力も知らないからです。:30 復活の時には、人はめとることも、とつぐこともなく、天の御使いたちのようです。』」と答えました。

③ 律法学者の質問 22:34－46

そして、三人目は律法学者です。律法学者はこの後34－46節にかけて、「一番たいせつな戒めは何ですか」とイエス様に尋ねます。イエス様は40節で「律法全体と預言者とが、この二つの戒めにかかっているのです。」と答えています。律法学者は恐らく予期していないイエス様の答えを聞いたのではないのでしょうか。なぜなら、彼らは一つの戒めしか教えられていなかったからです。それは申命6:4－5に「:4 聞きなさい。イスラエル。主は私たちの神。主はただひとりである。:5 心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。」と書かれています。律法学者はこの戒めしか知らなかったのです。しかし、イエス様はこの後、39節で「『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』という第二の戒めも、それと同じようにたいせつです。」と教えられました。この新しい戒めを聞いた律法学者は、恐らく心を冷たくしたのではないかと思います。

この三者三様の質問をイエス様はどのようにお感じになっていたのか——。パリサイ人もサドカイ人も律法学者もイエス様の答えられるそのことばに偽りを見出そうとしていました。彼らはイエス様を打ち負かそうとしてそれぞれの質問をしました。しかし、イエス様は質問する彼らの心のうちをすべてご存じでした。それは、イエス様が神だからです。46節を見ると、「それで、だれもイエスに一言も答えることができなかった。また、その日以来、もはやだれも、イエスにあえて質問をする者はなかった。」とみことばは教えています。質問したパリサイ人もサドカイ人も律法学者たちも自分の質問の真意が悪意に満ちた、イエス様を打ち負かそうという思いでなされた質問であることを自分自身よく知っていました。だから46節に書かれているとおり、彼らはその後イエス様に質問をすることはなかったとみことばは教えます。

2. 律法学者・パリサイ人の姿 23:1－4

そして23章の冒頭「そのとき」、イエスは群衆と弟子たちにこう言われたということで、きょうの学びの箇所に入
って行きたいと思います。イエス様は23:1-4で律法学者やパリサイ人の姿を明らかにします。そして、5-10
節で彼らを見習ってはいけないことを教えます。まず私たちは1-4節で律法学者やパリサイ人の姿を見て行き
たいと思います。

《肯定的な面》

① 教える権威がある 23:2-3a

「2 律法学者、パリサイ人たちは、モーセの座を占めています。3 ですから、彼らがあなたがたに言うことはみな、行
ない、守りなさい。」「モーセの座」ということばは教える権威を表します。律法を解釈して適応を教える者たちを言
うわけです。イエス様はここで彼らには教える権威があると言われている。パウロの弁明を見てください。ピリ
ピ3:5-6で、パウロは救われる以前の自分の姿を私たちに教えています。3:5-6に「5 私は八日目の割礼を
受け、イスラエル民族に属し、ベニヤミンの分かれの者です。きつすいのヘブル人で、律法についてはパリサイ人、6 その
熱心は教会を迫害したほどで、律法による義についてならば非難されるところのない者です。」と書いてあります。パウロ
は律法について熱心に学んだ者でした。同じように律法学者やパリサイ人たちも律法については多くの人たちよ
りも学びがあったのです。だからここでイエス様は「彼らがあなたがたに言うことはみな、行ない、守りなさい。」と言
うわけです。彼らには教える権威があるのだと。

《否定的な面》

しかしその後、イエス様は「けれども、彼らの行ないをまねてはいけません。彼らは言うことは言うが、実行しないから
です。」と言われます。確かに彼らは教える権威がある、しかし、イエス様はここで彼らについて二つの否定的な
ことを言うわけです。

① 心の伴わない行ない 23:3b

一つは彼らの行ないには心が伴っていないということです。「彼らの行ないをまねてはいけません。」、まねる、模
範としてはいけないとイエス様は教えるわけです。彼らの行ないには心が伴っていない、あるいは言っても行な
わないのだ、このようにイエス様は否定的な面を言うわけです。

② 人々に責任(義務)だけを押しつけた 23:4

そして4節でもう一つ彼らの否定的なところを指摘するのです。それは「また、彼らは重い荷をくって、人の肩に
載せ、自分はそれに指一本さわろうとはしません。」、彼らは人々に責任や義務だけを押し付ける者だと言います。こ
こで、「重い荷」ということばが出て来ます。これは旧約聖書に書かれていない、多くの規定のことです。違うこと
ばでいえば、言い伝え、口伝律法です。ここでイエス様はこのことを言うわけです。

マルコの福音書には、この言い伝えについてこのように書かれています。マルコ7:3-9「3 ——パリサイ人を
はじめユダヤ人はみな、昔の人たちの言い伝えを堅く守って、手をよく洗わないでは食事をせず、4 また、市場から帰った
ときには、からだをきよめてからでないと食事をしない。まだこのほかにも、杯、水差し、銅器を洗うことなど、堅く守るよう
に伝えられた、しきたりがたくさんある。—— 5 パリサイ人と律法学者たちは、イエスに尋ねた。『なぜ、あなたの弟子たちは、
昔の人たちの言い伝えに従って歩まないで、汚れた手でパンを食べるのですか。』6 イエスは彼らに言われた。『イザヤ
はあなたがた偽善者について預言をして、こう書いているが、まさにそのとおりです。『この民は、口先ではわたしを敬うが、
その心は、わたしから遠く離れている。 7 彼らが、わたしを拝んでも、むだなことである。人間の教えを、教えとして教える
だけだから。』8 あなたがたは、神の戒めを捨てて、人間の言い伝えを堅く守っている。』9 また言われた。『あなたがた
は、自分たちの言い伝えを守るために、よくも神の戒めをないがしろにしたものです。』、このように当時の口伝律法につ
いて書かれています。当時、このような言い伝えがみことばに書かれた成文律法よりも重きを置かれ、たとば
れていたのです。そして、このさまざまな言い伝えを「人の肩に載せ」て、そういう言い伝えの数をふやして人々に
義務だけを負わせたわけです。また律法学者やパリサイ人たちは「自分はそれに指一本さわろうとはしません。」、
人々を助けようとはしなかったのです。彼らは言い伝えを守るようにと教えるのですが、彼ら自身、このような言
い伝えを守ってはいなかったと、みことばは教えます。

ここに「重い荷」と書かれています。イエス様はある時「わたしの荷は軽い」と言われました。マタイ11:28-30
で、「28 すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげま
す。29 わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすれ
ばたましいに安らぎが来ます。30 わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。」と言われました。それ
はたとえイエス様の荷が重いものであっても、その荷には祝福や喜びあるということをイエス様はここで教えてい
るわけです。またこの「わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽い」と言われた、その理由は28-29節を見れ
ば、私たちは十分知ることができます。「わたしがあなたがたを休ませてあげます。」、29節は「わたしは心優しく、へり
くだっている」と。パウロはⅡコリント10:1で、「さて、私パウロは、キリストの柔和と寛容をもって、あなたがたにお勧め
します。」と言っています。このマタイ11章でイエス様が言われたとおり、「わたしは心優しく、へりくだっている」、パ
ウロはこのことを「キリストの柔和と寛容をもって」と言っているのです。

3. 見習ってはいけないこと 23:5-10

イエス様はパリサイ人は律法学者の肯定的な面を一つ、そして否定的なことを二つ教えられています。そしてこの後イエス様はこの5－10節で彼らを見習ってはいけないということを教えているわけです。

A. 律法学者やパリサイ人の偽善的な行ない 23:5－7

① 人に見せるため 23:5

5節「彼らのしていることはみな、人に見せるためです。経札の幅を広くしたり、衣のふさを長くしたりするのもそうです。」、彼らの行ないは人に見せるためのもののだと言います。ここに「経札」や「衣のふさ」ということばが出て来ます。「経札」はみことばを書いた紙きれを入れておく皮製の小さな箱のことです。ユダヤ人はこの小さな箱を額や左手につけて祈りました。そのことが出エジプト13:9や16節、申命記6:8、11:18に書かれています。申命記6:8では「これをしてしとしてあなたの手に結びつけ、記章として額の上に置きなさい。」と書かれています。また、「衣のふさ」というのは、着物のすその四隅にザクロ型のものでふさを作って垂らしていました。それは、そのふさを見て神様の戒めを思い起こしたり、またその戒めを行なうためにそのふさがつけられていました。そのことは民数記15:37－40でこのように書かれています。「:37 主はモーセに告げて仰せられた。:38 『イスラエル人に告げて、彼らが代々にわたり、着物のすその四隅にふさを作り、その隅のふさに青いひもをつけるように言え。:39 そのふさはあなたがたのためであって、あなたがたがそれを見て、主のすべての命令を思い起こし、それを行なうため、みだらなことをしてきた自分の心と目に従って歩まないようにするため、:40 こうしてあなたがたが、わたしのすべての命令を思い起こして、これを行ない、あなたがたの神の聖なるものとなるためである。』と。このために着物の四隅にふさをつけなさいと神様はイスラエルの人々に命令しました。しかし、パリサイ人や律法学者は、そのようなイエス様の思いから遠く離れたものでした。彼らはこのような「経札」を大きくしたり、「ふさ」を大きくして人に見せようとしたのです。それは、彼らがどんなに律法を守っているかを誇示するため、そのことによって人々から尊敬を受けようとしたためです。まさに彼らの偽善的な態度が、このような形で現れていたわけです。

② 人の尊敬を受けたい 23:6－7

そして、6－7節でもう一つ見習ってはいけないことをイエス様は教えます。「:6 また、宴会の上座や会堂の上席が大好きで、:7 広場であいさつされたり、人から先生と呼ばれたりすることが好きです。」と。彼はただ単に人に見せるために行なっていただけではなく、ひとつひとつの行ないは人から尊敬を受けたいという思いが強くありました。「宴会の上座」、これは主人の両側の席です。また「会堂の上席」は長老たちの席です。どちらも権威を表す席です。だから、彼らはこの席に座って人々から尊敬を受けたいと思っていたのです。また人々から挨拶をされたい、先生と呼ばれたい、このようにみことばは教えています。その心の思いはどこにあるのでしょうか？それは、人々から栄誉を受けたいのです、人々から褒められたいのです。まさにイエス様はこのような律法学者やパリサイ人の姿を否定するわけです。マタイ6:1には「人に見せるために人前で善行をしないように気をつけなさい。」、また5節では「また、祈るときには、偽善者たちのようであってはいけません。」、さも祈っていますよというふうに入前で祈ってはいけないと教えるわけです。そして16節には「断食するときには、偽善者たちのよう」であってはいけません。彼らは「私は断食をしていますよ」と、そのことを人々に見せるためにそれらの行為を人々に示したわけです。このようにマタイの6章のところでもパリサイ人や律法学者を「偽善者たち」と言われています。

B. 弟子たちに対する戒め 23:8－10

③ 「先生」などと呼ばれてはいけない

さて、律法学者やパリサイ人を教えた後8－10節で、弟子たちにあなた方は先生などと呼ばれてはいけないと教えます。それは、自分を人の上に置いてはいけないということです。「:8 しかし、あなたがたは先生と呼ばれてはいけません。あなたがたの教師はただひとりしかなく、あなたがたはみな兄弟だからです。:9 あなたがたは地上のだれかを、われらの父と呼んではいけません。あなたがたの父はただひとり、すなわち天にいます父だけだからです。:10 また、師と呼ばれてはいけません。あなたがたの師はただひとり、キリストだからです。」。先生はただひとりイエス・キリストです。父はただひとり、天におられる父だけだからです。主はただひとりです。それはイエス・キリストです。その理由を、イエス様は「あなたがたはみな兄弟だからです」と、あなた方はすべて上下がなく等しいものだと言われるわけです。だから自分を上に置いて先生などと呼ばれてはいけないと、弟子たちを戒めるわけです。

4. 弟子たちへの勧め 23:11－12

イエス様は23:1－10を通して、律法学者、パリサイ人の姿と行ないを弟子たちに教えた後に、あなた方はこのようなものではなく、こういうものになりなさいと、二つの勧めをなすわけです。律法学者やパリサイ人は仕えられることを好み、また自分を人よりも高くする、高いところに自分を置くことを望んでいる、このようにイエス様は話されたわけです。そして、11－12節でイエス様は「:11 あなたがたのうちの一番偉大な者は、あなたがたに仕える人でなければなりません。:12 だれでも、自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされます。」と教えます。イエス様はここで二つのことを弟子たちに教えるのです。しかし、この二つの教えは、今を生きている私たちに対する教えでもあります。

A. 仕える人＝従順 23:11

一つは仕える人になりなさい。従順を教えるわけです。

① しもべになりなさい マタイ20:26-28

マタイ20:26-28でイエス様は言われます。「:26 あなたがたの間では、そうではありません。あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、みなに仕える者になりなさい。 :27 あなたがたの間で人の先に立ちたいと思う者は、あなたがたのしもべになりなさい。 :28 人の子が来たのが、仕えられるためではなく、かえって仕えるためであり、また、多くの人のための、贖いの代価として、自分のいのちを与えるためであるのと同じです。」。皆に仕えるものになりなさい、しもべになりなさい。ここでもイエス様は「仕える」ということを教えています。

② 愛をもって互いに仕える ガラテヤ5:13

また、パウロはガラテヤ5:13で、「兄弟たち。あなたがたは、自由を与えられるために召されたのです。ただ、その自由を肉の働く機会としないで、愛をもって互いに仕えなさい。」と、愛をもって互いに仕えることの大切さを教えています。

③ イエスの従順 ヘブル5:8-9

また、私たちはヘブル人への手紙でイエス様が持たれていた従順を知ることができます。ヘブル5:8-9「:8 キリストは御子であられるのに、お受けになった多くの苦しみによって従順を学び、:9 完全な者とされ、彼に従うすべての人々に対して、とこしえの救いを与える者となり、」と、ヘブル人の記者はそれを私たちに教えます。イエス様は御子なのにお受けになった多くの苦しみによって従順を学んだと。

④ イエスの模範 ヨハネ13:12-15

しかし、この仕える人の姿はイエス様が弟子たちに残された模範で私たちはよく知っています。ヨハネの福音書13:11-15、イエス様は弟子たちの足を洗われたことが書かれています。そして、その後イエス様はあなた方に私の模範を残すと言われています。これは仕えるということ、弟子たちに教えたわけです。

⑤ 人間に示されたイエスの従順 ピリピ2:6-8

しかし、イエス様が示された従順の一番は、ピリピ2:6-8です。そこでは「:6 キリストは、神の御姿であられる方なのに、神のあり方を捨てることができないとは思えないで、:7 ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられたのです。:8 キリストは人としての性質をもって現われ、自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われたのです。」と書かれています。イエス様は弟子たちに「仕える者になりなさい。」と教えられました。イエス様が私たちに示されたこの従順は、イエス様の仕える者としての姿を私たちに十分に教えてくれます。

B. 自分を低くする人＝謙遜 23:12

そしてイエス様は12節でもう一つ弟子たちに教えられます。それは、「自分を低くする者」になりなさいということ、謙遜です。

① 自分を低くする者は高くされる

同じことばがルカ14:11あるいは18:14に書かれています。

② イエスの示された謙卑 IIコリント8:9 ルカ2:7 ルカ9:58

しかし、私たちはイエス様を通してイエス様の謙遜、謙卑を知っています。それはイエス様はどこでお生まれになったかということです。イエス様は王の王、主の主です。当然生まれて来る場所はそれにふさわしいものであるべきです。しかし、イエス様の生まれた場所は、馬小屋でした。ここにイエス様の謙遜を私たちは見ることができます。イエス様は生まれた時から、私たちに謙遜を教えておられるのです。

③ 謙遜を身につけなさい

またヤコブもパウロもペテロも私たちに謙遜を身につけなさいとみことばは教えます。ヤコブ4:10で「主の御前でへりくだりなさい。そうすれば、主があなたがたを高くしてください。」と教えています。またパウロはエペソ4:1-2で「召されたあなたがたは、その召しにふさわしく歩みなさい。 :2 謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を示し、愛をもって互いに忍び合い、」と記しています。またペテロは I ペテロ5:5-6で「:5 同じように、若い人たちよ。長老たちに従いなさい。みな互いに謙遜を身に着けなさい。神は高ぶる者に敵対し、へりくだる者に恵みを与えられるからです。:6 ですから、あなたがたは、神の力強い御手の下にへりくだりなさい。神が、ちょうど良い時に、あなたがたを高くしてくださるためです。」と教えます。

C. その方法:御霊の助けによって

イエス様は律法学者やパリサイ人の姿を浮き彫りにして、弟子たちに「仕える者になりなさい。」「自分を低く」しなさいと教えられました。私たちにも従順と謙遜を教えているわけです。私たちは自分の知恵で、自分の力で、この従順、謙遜を身につけようとして失敗を繰り返してきました。私たちはこの従順と謙遜をどのように身につけたらいいのか、みことばは私たちに教えるのです。なぜなら、イエス様が天に帰られた時、「もうひとりの助け主をあなた方に送ります。」、私たちを助ける方をあなた方に送ると言われたのです。またパウロはガラテヤ5:16で「御霊によって歩みなさい。」、また18節では「御霊によって導かれるなら、」と言っています。違う言い方をすれば、御霊の助けによって歩む、御霊の助けによって導かれるなら、こういう意味です。私たちはこの時に御霊の実を私たちのうちに根づかせることができるのです。それは皆さんご存じです。なぜなら、皆さんがそういう信仰生活を送っているからです。

私たちは、確実に従順と謙遜の信仰生活を経験することができるのです。それは御霊の助けによってです。皆さん考えてみてください。もし私たちの群れのすべての人たちがこの従順と謙遜を身につけたならば、私たちの群れはどのようなものになるでしょうか。私はこのような群れを想像すると、本当に喜びに踊ります。感謝が口から何万回となく出て来ます。なぜならその時に神の愛が私たちの群れの中にまっとうされるのです。またそういう従順と謙遜を身につけた兄弟姉妹は助け合おうとします。そういう兄弟姉妹の中に争いの起こるはずがありません。私たちは私たちの信仰生活の体験を通して、このことを十分に理解することができるはずです。なぜなら私たちは救われた者なのです。だから私たちの信仰生活を御霊の助けによって導かれて歩むことを神様が一番喜ばれるのです。

イエス様はきょう二つのことを最後にお話になって私たちに勧めをされています。それは、私たちがパリサイ人や律法学者のようではなくて、従順と謙遜を身につけたクリスチャンとして成長することです。